同和問題シリーズ 347

いのち・愛・人権

一人ひとりが、安心して暮らせるまち やさしさいっぱいのまち とっとりへ

いろいろな葛藤や思いの中、当たり前に生きていこうとしている障害のある子や家族に対して、地域は、そしてあなたは、どのような気持ちで接していますか？

そのつもりはなくても何気ない言葉や行為が、人を傷つけてしまうことがあります。

障害のある子どもを持つ親の体験談を通して、人権について考えてみましょう。

公園での砂遊び　Aさん

自閉症の我が子は、公園で遊んでいても突然に、近くの子のおもちゃを取ったり、砂をかけたりするなど、人とのかかわり合いがうまくできません。

我が子が遊びに行くと、その内周りにいた親子が離れていき、冷たい視線で親たちのひそひそ話が始まります。いつしか人がいない夕暮れの公園で遊ぶことに‥‥。

一人砂場で無心に遊ぶ我が子を見ながら、涙が止まりませんでした。

『我が子のありのままの姿を受けとめて欲しい』そんな願いが‥‥。

スーパーで…　Bさん

我が子をベビーカーに乗せ買い物をしていた時、そばにいた幼児が近寄ってきて「どうして、大きいのに歩けないの？」と聞いてきた。「それはね」と、言おうとしたとたん母親が、血相を変えて「そんなことを言っちゃだめ！」と、子どもを引っ張って逃げるように離れていった。

子どもが、疑問に感じたことを口にするのは当たり前で、そのことに明るく答えようとしていたのに……。とても悲しかった。

影響を受けやすい乳幼児期

乳幼児期の子どもたちは、人とのかかわりを通していろいろなことを学びながら成長していきます。この時期は、人を思いやる心や行動を養う基礎作りのうえで最も大切な時であり、日々子どもたちが身近に接している人・家族の影響を一番受けています。大人の意識や人とのかかわり方、生活の仕方そのものが、子どもたちの中に無意識のうちに入り込んでいきます。

地域みんなの力で

核家族化が進み、人間関係が希薄化している中で、子育てに悩んでいる保護者は少なくありません。とりわけ障害のある子の保護者にとっては、障害があることによる、我が子の将来や介助に対する不安など、肉体的にも精神的にも、子育ての負担が大きいと言えます。しかし、このような負担があるからこそ、子育てをするもの同士、お互い手を取り助け合って笑顔で生きていけるまちにしていかなければなりません。

そのためには、地域全体での取り組みも必要です。例えば、日々の生活の中で、困っている姿を見かけたら、「何かできることは、ありませんか」と声をかける。子育てで悩んでいる人がいたら一緒になって考える。また、障害のある人とふれあうなど、互いが助け合い、理解しようとすることが大切です。そうすることで、私たち一人ひとりに、そして地域全体に、人を思いやる心や会話、行動をする意識が芽生えるのではないでしょうか。

そして、子どもたちが、他人に対する思いやりの心を持ち、身構えないで自然にかかわっていける親の姿を見て、感じて、成長していくことで、わたしたちが目ざす「安心して暮らせるまち、やさしさいっぱいのまち とっとり」が現実のものとなっていくのです。

問い合わせ先　市役所駅南庁舎 児童家庭課 TEL（0857）20-3462